

令和 8 年 1 月 27 日

守口市教育委員会  
教育長 田中 実 様

八雲中学校区学校運営協議会  
会 長 尾 崎 英 和

義務教育学校「八雲学園」の校章に関する意見書の提出について

厳寒の候、守口市教育委員会におかれましては、日頃より本校区の教育活動および義務教育学校「八雲学園」開校に向けてご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

当協議会では、八雲中学校区に新たに開校する義務教育学校を子ども達や教職員はもちろん、地域や、ひいては、守口市にとって誇りとなるような学校とすべく、地域の代表として種々の意見を集約し、検討を行っているところです。

このたび、校名に続いて、義務教育学校「八雲学園」の校章候補につきまして、下記のとおり公募及び住民投票を実施し、当協議会としての意見を決定いたしましたので、下記のとおり、意見書を提出するものです。

つきましては、教育委員会においてご検討いただき、ぜひ、「八雲学園」の校章としてご採用くださいますようよろしくお願いいたします。

記

提出書類

義務教育学校「八雲学園」の校章に関する意見書（1部）

# 義務教育学校「八雲学園」の校章に関する意見書

令和8年1月27 日

八雲中学校区学校運営協議会

## 1 校章決定の経緯について

「八雲学園」の校章につきましては、新しい学校のシンボルとして、特定の立場に偏ることなく、地域全体の思いが反映されることをめざして、校名募集のときと同様に、児童生徒・保護者・地域住民を対象に広く公募を行いました。

応募作品は事務局において整理し、第4回学校運営協議会において、デザイン性や理念との整合性、法的リスクがないか等の観点から協議を行い、候補作品を選定しました。

その後、現在の八雲中学校の校章を含めた複数案を最終候補とし、住民投票を実施した結果、最も多くの支持を得た作品を「八雲学園」の校章候補として決定しました。

## 2 本取組の意義について

本校章決定のプロセスは、単にデザインを選定するものではなく、

- ・子ども達・保護者・地域が新しい学校づくりに主体的に関わる機会となったこと
- ・新校が「地域とともにある学校」であることを具体的に示す取組みとなったこと
- ・子ども達にとって、自分達の学校に誇りと愛着をもつ契機となったこと

に大きな意義があったと考えております。

とりわけ、住民投票という形で意思を反映させたことは、今後の学校運営においても大切にすべき「対話と参画の姿勢」を象徴する取組みであり、「八雲学園」の学校文化の基盤になるものと考えます。

### 3 応募の時の作者からの作品のコンセプト

#### ○デザインのコンセプト

- ・東に生駒山系、西に六甲山系、目の前に広がる大河淀川の豊かな自然環境を校章にあしらいました。
- ・山の3つのピークは「旧下島小学校、八雲中学校、八雲小学校」を表し、大河淀川の穏やかな水面の様子を表現し、周囲には守口市の木「くすのき」の葉と木の実をあしらい、地域の大人たち(葉)と子どもたち(木の実)のつながりを表しています。
- ・子どもたちには、人とのつながりを大切にしながら「くすのき」の特徴「寿命が長く、強健で、雄大な姿」のごとく、強くたくましく成長してほしい、そのような願いを込めた校章です。



#### ○周囲を取り囲むくすの木の葉と木の実の数

葉の数22枚は、地域の大人たちを代表する「学校運営協議会のメンバー総数」を意味し、木の実の数10個+10個は【十人十色】。子どもたちの個性や輝き可能性は人それぞれ、子どもの数だけある、十人いれば十通りの無限大の未来があることを意味しています。



#### ○「八雲」の書体は「麗流隷書」

隷書体は、その特徴として、左右の払いで波打つような運筆(波磔)をもち、線に角度や強弱をつけることで文字に重厚さやかっこよさ、やわらかさや厳しい雰囲気まで、多様な表情を生み出すことができます。

その実用性や可能性の高さから、「日本銀行券」をはじめ契約書や公的書類、個人用の認印や銀行印として用いられています。

隷書体は、ときに厳格に、ときに柔軟に、多様な姿勢で子どもたち等に向き合う教職員等の姿勢を意味しています。

#### 4 今後に向けて

本協議会といたしましては、今回の校章候補決定の取組みを、今後の学校理念の共有や学校行事の在り方等にも生かしながら、引き続き、子ども・保護者・地域・学校・教育委員会が協働する学校運営の充実に努めてまいりたいと考えております。本取組みの趣旨をご理解のうえ、今後の義務教育学校「八雲学園」の開校準備及び学校運営に反映していただきますよう、よろしくお取り計らいお願い申し上げます。

## 八雲中学校区 学校運営協議会委員名簿

## 委 員

1	尾崎 英和	会 長 学校支援コーディネーター
2	坂元 正幸	副会長 八雲小学校PTA会長
3	槇原 恵理子	事務長 保護司
4	木村 剛久	青少年育成指導員会八雲校区 校区長 八雲地域コミュニティ協議会会長 八雲小学校PTA書記
5	市村 香代子	下島地域コミュニティ協議会副会長
6	小島 眞美	民生委員 人権擁護委員
7	藤田 淳	八雲中学校 PTA代表
8	清水 初実	八雲小学校 PTA副会長 八雲中学校 PTA代表
9	吉田 彩矢香	八雲小学校 PTA会計
10	松本 健嗣	学校支援コーディネーター
11	木村 美香	学校支援コーディネーター
12	赤星 美由紀	学校支援コーディネーター
13	小川 勝	学校支援コーディネーター
14	新海 富士子	学校支援コーディネーター
15	西川 信廣	京都産業大学名誉教授
16	水川 登志雄	八雲小学校長
17	佐々木 幸子	八雲中学校長

# 八雲学園 校章デザイン 住民投票のご案内

義務教育学校「八雲学園」として  
新たにスタートします。  
この学校の新しい顔となる  
校章デザインをQRコードから  
投票してください。



【これまでの経緯】  
校名募集と同様の方法で  
すべての地域住民を  
対象に校章デザインを公募しました。  
その結果、応募作品から5点と  
現在の八雲中学校の校章を加えた  
6案を最終候補として選定しました。

①



東に生駒山系、西に六甲山系、目の前に広がる大河淀川の豊かな自然環境を校章にあしらいました。山の3つのピークは「旧下島小学校、八雲中学校、八雲小学校」を表し、周囲には守口市の木「くすのき」の葉と木の実をあしらひ、地域の大人たち（葉）と子どもたち（木の実）のつながりを表しています。子どもたちには、人とのつながりを大切にしながら「くすのき」の特徴「寿命が長く、強健で、雄大な姿」のごとく、強くたくましく成長してほしい、そのような願いを込めた校章です。

②



淀川に隣接した学校なので淀川の自然の緑と川の流れをイメージしました。  
周りは月桂樹をデザインに入れました（淀川に月桂樹は自生していませんが）月桂樹の一般的な意味で『勝利』『栄光』の象徴があり新しい学校全体の発展そして未来への希望を込めてこのデザインにしました。八雲の文字下は川の流れをイメージしています。これには八雲中学、八雲小学校の両校は『八雲』と言う名が残りますが下島小学校の物を何か残したいと思い下島小学校校章にあった川の流れを残す感じになりました。

③



八雲中学校の外枠に八雲小の「八雲」の文字、下島小の淀川の模様を合わせ、三校が一つにまとまり新たに誕生する姿を表しています。  
中央の「八雲」は調和の心を、外周の八方に広がる形は未来へ羽ばたく子どもたちを、内側の円は「和」を表し、学校・家庭・地域が共に子どもを育む姿を示します。  
下部の淀川は知識を水のように吸収し社会を潤す願いを込めています。

④



校章ですので、基本形は円形。  
外周の角度を付けた八つの半円は八つの雲（八雲）を表現しました。  
この八の数には、個人的に「仁・義・礼・智・忠・信・孝・悌」の想いを込めました。  
雲を表す半円は白色に、地色は八雲小学校の伝統色を使用しました。文字色白色及びゴールド系が希望です。

⑤



下小と八雲小には桜のモチーフで校章がつくられていたため、その桜を受け継ぎ、全体的な色を八雲中の校章の色を用い、3校の伝統を受け継ぎ、新しい形の校章としてデザインしました。盾には「勇気」「伝統を守っていく」という意味をこめています。また盾の形は Y と K と M を合わせた形にしました。

⑥



現在の八雲中学校の校章をそのまま引き継ぐ案となっています。